

この作品はクリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンスの下に提供されています。

ROBOCON REPORT 2021 by Young Maker

学校名	埼玉大学教育学部附属中学校		
(ふりがな) チーム名	さと 石少糖 (SATO)		
ロボコンルール (名称 URL)	名称：新型コロナ撲滅オペレーション	都道府県名	埼玉県
製作期間	2020年9月頃から2020年12月頃まで	製作時間	10時間
<p>ロボットに関する写真と図</p> <p>必ず、ロボットの概要や機構等の特徴がわかる写真や図等を1~4枚で掲載する。</p> <p>写真や図に記号等を書き込み、下の枠「ロボットのアイデア概要」で解説する。</p>			
<p>ロボットのアイデア概要</p> <p>【報告書要約】</p> <p>どのような動きを実現するために、具体的にどのような素材や機構を用いて実現したのか、枠いっぱい解説を書き込むこと。</p>	<p>消毒のふきんをロボットのローラーのような部分に巻き付ける。 高さ分2種類あるので、それに対応するために歯車とチェーンを組み合わせ、それらを連動させて高さを変えられるようにする。(1つのチェーンだと出 杖の下にもぐりこめるようにするため、前の補助カペタルの(動く必要だった) ねじも普通のねじではなく長さが短いのにした。(ふくこしができる部分をより 大きくするため)</p>		
<p>参考資料</p> <p>製作上参考にした資料や、参考にした先輩のロボット等の情報についてできるだけ詳しく解説する。</p>			

< 構造 >

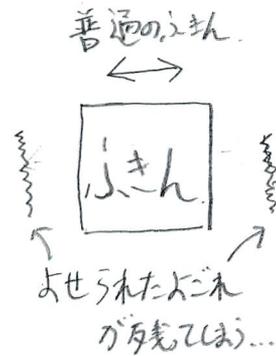
① ローラー（ふきんを取り付ける音防）は、
重心が前にある分、バランスを取るために軽
い素材であるプラスチックを使った。



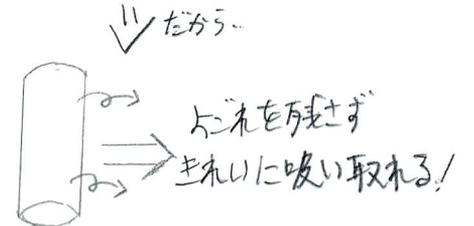
最初は、タイヤで使っていたがゴムが思ったよりも
重くなってしまったのでゴムの部分を外した。

② なぜローラーなのか...?

普通にふくよりもふき残しが少ない
という利点がある。



(車がピカピカになる洗車機の
仕組みを取り入れた)



③ ローラーを回すモーターがある柱のところを、
前のローラーの付いている柱と連動させること
によってモーターの使う数や電力を軽減することができる。